

臨床指導スキルアップセミナーを開催しました

セントポール病院（4月5・6日）、バックマイ病院（4月9・10日）で臨床指導スキルアップセミナーを開催しました。島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターから佐藤専門家を講師に迎え、臨床で直接新卒看護師を指導する臨床指導者が、新卒看護師が科学的根拠に基づいた看護実践ができるようになるための学習支援方法について、フィジカルアセスメントを中心に学びました。

経験を積んだ看護師が無意識的に実施している看護を、経験が少ない新卒看護師に根拠に基づいてどのように説明するのか、臨床で日常的に実施する呼吸、脈拍、血圧測定の見守り技術と根拠をどのように結びつけるのか、さらに身体所見から判断や予測をして看護の実践へと結びつけられるようになるためにどのように新人看護師を支援するのかという方法について学習しました。セミナーを通して「看護師だからできること」について考え、「看護のやりがいや誇り」を後輩たちに伝えていくことの大切さにも気づくことができました。

今回のセミナーはフィジカルアセスメント技術学習用シミュレーターを用いて、参加者自身が体験しながら、楽しく、活発に学ぶことができました。



血圧測定：

患者の状態を正しくアセスメントするためには、正しく測定できることが重要。測定手順一つ一つにどんな意味があるのか、測定した値にどんな意味があるのか、新卒看護師へ伝える方法を学習しました。

「どうして測定位置が決まっているの？」

「高血圧の病態は？」

術後合併症：

術後患者が訴える症状とバイタルサイン、観察した情報を統合して、患者に何が起きているのか予測する能力を養うためにはどんな指導が必要か。

「手術後3時間経った患者さんが、お腹が痛い、ぼーっとすると訴えています。バイタルサインと症状から何が起きていると予測しますか？」



新卒看護師に対する学習支援の実際

「テーマ：バイタルサインを測定するだけの新卒看護師に対する学習支援」

新卒看護師がバイタルサイン以外にも患者を観察し、バイタルサインと身体所見、患者の訴えを統合して看護を考えられるようになるために、どんな関わりが必要かロールプレイを用いて考えました。



研修生の意見を熱心に聞き、講義を進める佐藤専門家と先生の話に真剣に耳を傾ける研修生



（左）セントポール病院 （右）バックマイ病院
セントポール病院の研修にはディエンビエン省、ビンディン省から、バックマイ病院の研修にはドンナイ省、ビンフック省から代表者が参加してくれました。各地域で学んだことが普及していくことを期待しています。